ISSN 1226-6582

알 타 이 학 보

제 10 호 2000년 6월

목 차

퉁구스어의 음운구조와 문법구조 연구 ..... 권재일 · 김주원 · 1
漢淸文鑑 '一云' 만주어 語句의 통시 음운론적 특징 ..... 고동호 · 57
≪御製淸文鑑≫의 滿洲語 ..... 성백인 · 81
朝鮮時代 女眞學/淸學 ..... 宋基中 · 105
알타이제어의 어말어미 -m에 대하여
— 만주어 종결어미 -mbi를 중심으로 — ..... 최동권 · 117
论满语seme的几种常见用法及其词性 ..... 屈六生 · 133
滿洲語動詞語尾-ciの文末用法と-cinaについて ..... 津曲敏郎 · 139
현대 몽골의 사회적 커뮤니케이션 — 언어사용에
함축된 정체성과 소속감 — ..... 박환영 · 151
蒙語老乞大 語彙小考 ..... 최형원 · 169
Mongolic vowel shifts and the classification of
the Mongolic languages ..... Jan-Olof Svantesson · 193
契丹小字の親族称号について ..... 豊田五郎 · 209
휘보 221

한 국 알 타 이 학 회

ALTAI HAKPO

JOURNAL OF THE ALTAIC SOCIETY OF KOREA

No. 10 June 2000

CONTENTS

A Study on the Phonological and Grammatical Structures of Tungus ..... Jae-il KWON · Ju-won KIM · 1
Characteristics of Manchu Words and Phrases of 'irun(一云)' in *Han-cheong-mun-gam*(漢淸文鑑) — in the perspective of historical phonology — ..... Dong-ho KO · 57
On the Manchu of *Yu-zhi-qing-wen-jian* ..... Baeg-in SEONG · 81
The Study of Jurchen/Manchu in the Chosŏn Dynasty ..... Ki-Joong SONG · 105
On the Final Ending *-m* in the Altaic Languages — With special reference to the sentence final ending *-mbi* in Manchu — ..... Dong-guen CHOI · 117
On Some Usage and Characteristics of Manchu *seme* ..... QU, Liu-sheng · 133
The Manchu Sentence-final Converb in *-ci* with Reference to the Origin of *-cina* ..... Toshiro TSUMAGARI · 139
Social Communication in Post-Socialist Mongolia — Inherent Identity and Belonging in the Usage of Language — ..... HwanYoung PARK · 151
A lexical study on *Mong-eo-no-geol-dae* ..... Hyong-won CHOI · 169
Mongolic vowel shifts and the classification of the Mongolic languages ..... Jan-Olof Svantesson · 193
On the Kinship term in Small Khitan Characters ..... Toyoda Gorō · 209
Miscellanea 221

Published by
THE ALTAIC SOCIETY OF KOREA
Address: c/o Department of Linguistics
Seoul National University
SEOUL 151-745, KOREA

契丹小字の親族称号について

豊田五郎

一、はじめに

契丹族の太祖阿保機は遼国を建て、920年に契丹大字を制し、その後太祖の弟迭剌が契丹小字を作ったと伝えられる。契丹小字で現存する最早の資料には1053年の≪耶律宗教墓誌≫があり、それ以前の契丹小字は未発見である。又契丹小字の最晩の年款は≪金代防禦使墓誌≫の大定十年(1170)で、これは契丹文字廃止の記録がある明昌二年(1191)の20年程前のものである。

本文は契丹小字の親族称号について考え、弟、兄、母、父、子、孫、先祖、祖父、大父、伯父、叔父、曾祖父、妻、子(複数)、孫(複数)、男、女、舅等一系列の語詞を解読した。[1)]

二、親族称号

1. 弟

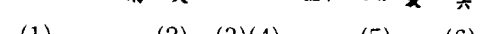
契丹小字の親族称号で最初に解読されたのは弟である。唐乾陵参道の無字碑中に金代の≪郎君行記≫があり、明代の≪石墨鐫華≫にも収録されているが、1925年羽田亨博士はこれを契丹文字と指摘し、旧来の女真字説を排した。その第1行に次

---

1) 本論文が引用した契丹小字の略記号は次の通りである:

宗教	耶律宗教墓誌	1053年
興	興宗皇帝哀冊	1055年
令	蕭令公墓誌	1057年
仁先	耶律仁先墓誌	1072年
仁	仁懿皇后哀冊	1076年
道	道宗皇帝哀冊	1101年
宣	宣懿皇后哀冊	1101年
許	許王墓誌	1105年
故	故耶律氏銘石	1115年
郎	絳略郎君行記	1134年
仲	蕭仲恭墓誌	1150年
防禦	金代防禦使墓誌	1170年

の句があり、第6行の漢文"大金皇弟都統経略郎君"と対比し得る。



(1) (2) (3)(4) (5) (6)

1963年ソ聯のシャフクノフはその論文附表で(1)大金(2)皇帝の(3)□(4)将軍(5)経略(6)撒離喝と読んだ[2]。ここに書いていないが(3) を弟と考えた事は疑いがない。その後中国社会科学院民族研究所と内蒙古大学で組成した契丹文字研究小組は1977年〈関于契丹小字研究〉を発表し、上掲句を(1)大金国の(2)可汗の(3)弟と決定し、又附表で(4)都統(5)経略とした[3]。1978年には(6)を沙里即ち郎君と読んでいる[4]。

2. 兄

即実は1988年〈従 説起〉に於て 字を[ʧiə/iə]と読み蒙古語娚と同じく考えた[5]。韓宝興は1991年論文に於て を家弟と釈読し に[jia]の比定音を与えた[6]。1977年の〈関于契丹小字研究〉は に対しiæの音を与え、 を夫々kiamと読んでいるがこの読音は正しい[7]。私はその上単独の場合 を兄の表意字を考える。それは殆ど弟と並べ熟語兄弟として用いられるのがその証拠である。

兄弟 (許 21、54、仁先 3、4、47、48、65)

兄弟の (許 52、仲 12、28、仁先 1、6)

弟兄 (道 14)

兄大王の (仁先 68)

私は の字音を一般にiaとするが、単独字は表意字で訓読したと考え、 (兄)をaqa (弟)をdeuと読む。例えば の字音はuiであるが単独の表意字で uileと読む

2) シャフクノク〈契丹女真小字解読問題〉Э.В.Шавкунов: К вопросу о расшифровке малой кидань-чжурчжэньской письменности.《東洋碑銘学 XV》Эпиграфика восток a. 15. 1963г. p.152。

3) 契丹文字研究小組 〈関于契丹小字研究〉≪内蒙古大学学報≫1977年第4期 p.67。

4) 契丹文字研究小組 〈契丹小字解読新探〉≪考古学報≫ 1978年第3期 p.377。

5) 即実〈従 説起〉≪内蒙古大学学報≫1988年第4期 p.60-61。

6) 韓宝興〈契丹小字"耶律仁先墓誌"考釈〉≪内蒙古大学学報≫1991年第1期 p.71、77。

7) 前掲 脚註 (2)の書 p.63。

如きである。

3. 母

王静如は1933年〈契丹国字哀冊初釈〉で第1行をこう訳した:[8]

 宣懿皇后哀冊文

〈関于契丹小字研究〉は≪遼史・国語解≫注に"耨斡,后土称,麼母称"というので  を耨斡麼(地母)と解釈し、従って  は母てある[9]。しかし同注に"麼亦作改"と但し書があり、もし耨斡改を採用して改をkで表わすなら  音をkと比定することができる。私は単独字 をekeと読み蒙古語の母と同一視する。そこで noe eke (地母)ということになる[10]。又 (仲 11、12、16)は母公主、  (仁先 37)は次母子と読める。

 父母 (宗教 19)

 母子 (防禦 13、43)

 元妃乳母の (故 12)

 元妃の□母 (故 17)

4. 父 

≪金史・蕭仲恭伝≫に次の如く記す:

"蕭仲恭本名求里者, 祖は撻不也。遼に仕え枢密使守司従となり蘭陵郡王に封ぜらる。父は特末、中書令守司空となり[公]主をめとる。… 仲恭の母は道宗の季女なり。… 天徳二年越国王に封じ、燕京留守に除す。この歳薨ず。年六十一。…"

1942年河北省興隆県梓木林子村の金墓から発見された契丹文墓誌は、1973年王静如論文で享年生歿年の一致により蕭仲恭のものと推測された[11]。その第16行 は母公主で、第17行   を父駙馬のと読んだのは1988年の即実の論文である[12]。ここで と は 対仗語として出現している。彼は続いて"契丹語で

8) 王静如〈遼道宗及宣懿皇后契丹国字哀冊初釈〉≪国立中央研究院歴史語言研究所集刊≫第3本第4分 1933年 p.471。

9) 前掲 脚註 (2)の書 p.65。

10) 拙著〈関于契丹小字的幾点探索〉≪内蒙古社会科学≫1991年第3期 p. 110。

11) 王静如<興隆出土金代契丹文墓誌銘解>, ≪考古≫1973年 第5期 p.312。

父を称して 𐲀𐲉𐲍 といい、祖父を称して 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 といい、… 仲父を称して 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 といったことがわかる"とする。この釈読は従うべきである。

5. 子 𐲀𐲉𐲍

漢文≪聖宗哀冊≫で嗣子興宗は哀子嗣皇帝臣宗真とあり、又契丹文≪興宗哀冊≫第4行で哀子は興宗の嗣子道宗のことを指す。

𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 (哀)子神嗣汗

劉鳳翥は1985年論文で帝号についていう:"≪道宗哀冊≫第10行の 𐲀𐲉𐲍 も専ら遼太祖を指すもので… この哀冊の第11乃至第15行も夫々遼太宗,世宗,景宗,聖宗,興宗の事跡を叙述し、…従って 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 は専ら遼太宗を指す"[13]。

今 𐲀𐲉𐲍 を子と解釈する事により、天皇帝の子即ち天子であり、太宗尊号嗣聖皇帝とも一致する。興9の 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 天子も同様太宗を指す。

𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 子 清寧皇帝 (仁 7)

𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 子汗 (興31) (仁16)

𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 汗子 (仁28)

蒙古語でbayaは小を意味するが、私は 𐲀𐲉𐲍 を bayaと読み、子と推定する。

6. 孫 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍

王弘力〈契丹小字墓誌研究〉は墓誌解釈の到る処で神機軸が見え啓発される点が多い。しかしすべて正しいわけではなく、例えば一般爵号の項に 𐲀𐲉𐲍 についての解読がある:

𐲀𐲉𐲍 bekj "官", … 突厥語 bəkに源し… 現代では伯克と訳する。𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 𐲀𐲉𐲍 bekji bekj "別乞之官"も"衆官の官"で意味は皇帝である[14]。

私は皇帝はking of kingsであっても衆官の官ではないと思う。漢文道宗及宣懿哀冊には孝孫嗣皇帝延禧の句があり、天祚帝が道宗の長子濬の嗣子であることを指す。そこで孝孫嗣皇帝は哀孫嗣皇帝と言い換えてもよく契丹文哀冊には次の様に

12) 前掲 脚註 (4)の書 p.65。

13) 劉鳳翥<契丹小字𐲀𐲉𐲍 和𐲀𐲉𐲍 的解読及其他>,≪宋遼金史論叢≫第一輯 1985年 中華書局 北京 p.322。

14) 王弘力<契丹小字墓誌研究>≪民族語文≫1986年第4期 p.56-70 四、官爵中 10. 一般爵号項。

記されている:

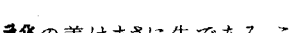
 (哀)子之子神嗣汗 (道7)

これは宣6、7にも全く同形で現われ、子之子が孫であることは誤りがない[15]。即実も1988年の前掲論文に於て を子とし を孫とし私と全く同意見である[16]。

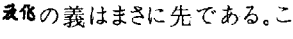
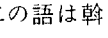
7. 先祖 

即実は前掲論文で を先祖と解釈し言う:

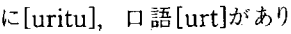
の義はまさに先である。この語は斡魯朶として用いられ、その音は[urut]で蒙古語に[uritu], 口語[urt]があり義は往昔先前である。[urut] と[urt]は甚だ近く義も相同じいのでその義を先と推定する。 は〈越(仲恭)誌〉で父として用いられ、指定詞を加えると祖父である。ここでも…父の意味であろうか。そこで の義を先祖と推定する[17]。(蒙古文語はuridus)。

用例  (道 10)

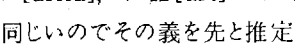
万国 領 汗 兩聖 先 祖

 (仁先 2),  (令 4)

先祖玄 祖 皇 帝 先祖 延□

 (故4)

先祖懿 祖 皇 帝

 (許 5)

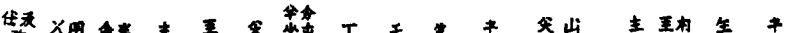
先祖 太祖 神冊 皇帝の[弟]の王の許国王

8. 祖父 

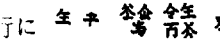
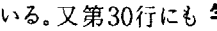
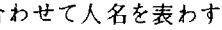
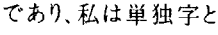
≪遼使・興宗紀≫に重熙二十一年七月"壬子太祖の祖を追尊して簡献皇帝廟号玄祖となす"とあるが、≪耶律仁先墓誌≫第3行にこれに対応する記事があり は祖父と解釈して差支えない。

---

15) 前掲 脚註 (9)の書 p.113。
16) 前掲 脚註 (4)の書 p.56, 66。
17) 前掲 脚註 (4)の書 p.57。

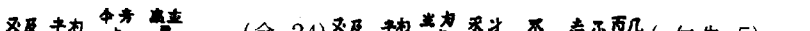


聖 興宗 皇帝 重熙 廿 一 辰 年 神冊 皇帝の 祖父

≪蕭仲恭墓誌≫第2行に があり、即実は前掲論文で祖翁号撻不也大王と釈読している。又第30行にも  あり祖翁大王のである[18]。契丹小字では子音を組合わせて人名を表わすが、撻不也 は概括表記でTBYとなる。そこで  はBであり、私は単独字として祖父を指すebügeと読む。 は既に  大夫や 開府でaiと読まれる。余志鴻によると東郷語で現代蒙古語と同源のawi～abaを用いて父を呼ぶ由である[19]。そこで私は  の読音をawiと推定し、 をebüge awi とする。

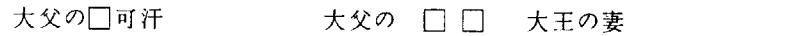
9. 大父

契丹小字に があり大父と訳しうるが、その意味は祖父又は外祖父を指すのである。



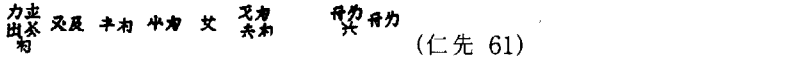
(令 24) (仁先 5)

大父の□可汗 大父の □ □ 大王の妻



(仁先 61)

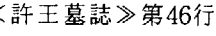
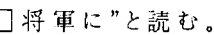
舅の大父の 臘月沙里の 孫



(許 51)

大 父 □ 太 師の子 □ 将軍に 嫁す。

10. 伯父

父の兄は伯父である。≪許王墓誌≫第46行に次の句 があり私はこれを“伯父□将軍に”と読む。又≪故耶律氏銘石≫第5行に  があり徳祖皇帝の伯父の子と読む。さきに父の項で述べたように伯父には  (仲父)の表現もある。

---

18) 前掲 脚註 (4)の書 p.63-64。

19) 余志鴻<従‘蒙古秘史’語言看東郷語>≪民族語文≫1994年第1期 p.19。

 (許 12) (宗教 5)

仲 父 北院林牙 伯父聖宗皇帝

私は をjirter awi, を aqa awiと読みたい。

11. 叔父

≪耶律仁先墓誌≫第27行に次の句がある。:

 私はこの字句を叔父皇太叔子楚国王涅魯古と読む。第32行 (皇太叔孛吉只), 第36行には (叔父孛吉只の)とあり、父の弟は叔父である。この記事は興宗の弟重元即ち孛吉只が道宗即位時皇位承継者を意味する皇太叔となり乍ら、清寧九年その子涅魯古と所謂重元の乱を起し、耶律仁先が鎮圧に大功をたてたと記す。私は をdeu awiと読む。

≪耶律宗教墓誌≫第35行にも叔父がある : 母の叔父の子。

12. 曾祖父

≪金代防禦使墓誌≫残石第4行に次の文があり :

曾 祖 父 □ 郎君、祖 父□ 都監…父… 母

と解釈すべきである。 は の行書で は記述順より曾祖父とするのは妥当である。

13. 妻

私は〈関于契丹小字的幾点探索〉で曾て を人の表意字と考えkü'ünと読んだ事がある:

(僕人) (天人) (聖人) (母人)[20]

この は ≪蕭仲恭墓誌≫ 第43行に:

 とあり即実は前掲論文で妻 国妃 子侍郎と釈読し

20) 前掲 脚註 (9)の書 p.110-111。

た[21]。越国王の妻は越国妃であり、仲恭の子拱は禮部侍郎であったので 𐰚𐰃 を妻とするのは従うべきである。

私は 𐰚𐰃 を eke kü'ünと読む。

用例  令公の妻□夫人（令 8）

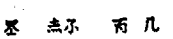
 孫□将軍の妻(令 15)

 妻禮節夫人（令 22）

 国王の大妻（仁先 4）

 大王の 妻（仁先 5）

 妻妃（仲 11）

 妻富簽君は晋王の（仲 27）

ついでに言えば≪耶律宗教墓誌≫第35行に 𐰚𐰃 (妻)の対仗語 𐰃𐰚 があり、これは夫を意味し awi kü'ünと読むべきであろう。

14. 子(複数) 𐰋𐰉𐰇

1986年王弘力は前掲書で 𐰋𐰉𐰇 をこう解読した:

"𐰋𐰉𐰇 bagatʃuは蒙古語bagatʃuud(小孩、少年)に相当し、契丹語で子息(複数)に用いる"[22]。私はbaɣačuと読む。複数と思えるものはこうである:

 子二(許 48)(故 16)(仲 4、29)

 子三(故 16)(仁先 2)

 子四(故 18)

 子五(仲 6)

15. 孫(複数) 𐰋𐰃𐰉𐰇

孫 a 𐰋𐰃 が単数であれば、孫 b 𐰋𐰃 𐰋𐰉𐰇 は複数を表わす筈である。≪蕭仲

21) 前掲 脚註 (4)の書 p.66。
22) 前掲 脚註 (13)の書 八,親属伯仲22親属兄弟項。

恭墓誌≫第30行には  孫(複数)三という記事がある。私は前述孫(単数)  を bayai bayaと読み、孫(複数) を bayai bayačuと読む。即実も1988年の〈従  説起〉書中 p.66で を孫の複数としている。

16. 男

即実は〈関于契丹数詞音読問題〉1986年で次の如く述べる:

"契丹語で母を といい、 に語尾を加えた は女性のの意味がある。…契丹語で父は であり、 に語尾を加えた は男性の意味を表示する。二つを相対照すると誤りがない事がわかる。そこで男と解読する。"[23]

 男子二 (令 23)

 三男の兄弟(仁先 3-4) この句は三度も出現し、私は皇族の三父房(孟父房, 仲父房, 季父房)を表わすと考える。

17. 女

1986年即実は〈 不等于 〉に於て長子の長に   の書き分けがあると指摘し[24]、同年王弘力は前掲論文で更に詳しく次子三子四子について例を挙げ、  を子とし  を女としている。そして の音は əmətе 即ち女で蒙古語 emektei 婦女と近いとする[25]。 女子 (令 24)

私は  をkと読み を ökidと考える[26]。

18. 舅 

1982年即実は〈契丹小字字源挙隅〉に於て≪許王墓誌≫第3行の  を"国舅帳"とし、 を[nayatʃukui] 蒙古語舅家[nayatʃuxi]と比較し、又 を"帳の"と読んだ[27]。 は≪仁懿哀冊≫第5行や≪蕭仲

23) 即実<関于契丹数詞音読問題>≪内蒙古大学学報≫1986年第4期 p.89-100 二.共数詞2項。

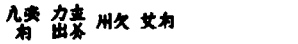
24) 即実<、   不等于   >,≪民族研究≫1986年第1期 p.23-29。

25) 前掲 脚註 (13)の書, (21)に同じ。

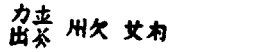
26) 拙著 脚註 (9)の書 p.113。

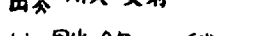
27) 即実<契丹小字字源挙隅>,≪民族語文≫1982年第3期 p.59-60。

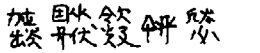
恭墓誌≫誌蓋第1行に見える。


国舅小翁帳（許 3、51）


舅小翁帳（許 45）


舅夷離畢□相公の（故 17）


舅敵輦□統軍の（故 18）


舅小翁帳（仲 5）


舅猛安号（仲 22）


舅小父房涅魯袞（宗教 19-20）


舅大翁帳（宗教 21）


舅福 四 里 太師の孫晋達 将軍に 嫁す(仁先 62)

<あとがき>

契丹文字の親族称号の異色あるものに夫人がある:

夫人は漢語の夫人の直訳で fusinであり、貴人の妻に対する敬称であった。

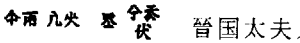

韓国夫人 号(宗教20)


国夫人 号(令8)


禮節夫人(令22)


晉国太夫人(許8 26)


長安夫人(許8)


蘭陵郡夫人(許9)

その他祖母、伯母、叔母、姉、妹に当る契丹小字はまだ解読されていないので今後の探討を待つ。

参考文献

王静如 <遼道宗及宣懿皇后契丹国字哀冊初釈>≪国立中央研究院歴史語言研究所集刊≫第3本第4分 1933年。

シャフクノク <契丹女真小字解読問題>Э.В.Шавкунов: К вопросу о расшифровке малой кидань-чжурчжэньской письменности.≪東洋碑銘学 XV≫Эпиграфика востока. 15. 1963г。

王静如 <興隆出土金代契丹文墓地銘解> ≪考古≫1973年 第5期。

契丹文字研究小組 <関于契丹小字研究>≪内蒙古大学学報≫1977年 第4期。

契丹文字研究小組 <契丹文字解読新探>≪考古学報≫1978年 第3期。

即実 <契丹小字字源挙隅>≪民族語文≫1982年 第3期。

劉鳳翥 <契丹小字 和 的解読及其他>,≪宋遼金史論叢≫第一輯 1985年 中華書局 北京。

王弘力 <契丹小字墓誌研究>,≪民族語文≫1986年第4期。

即実 <関于契丹数詞音読問題>≪内蒙古大学学報≫1986年 第4期。

即実 < 不等于 >,≪民族研究≫1986年 第1期。

即実 〈従説起〉≪内蒙古大学学報≫1988年 第4期。

韓宝興 <契丹小字"耶律仁先墓誌"考釈>≪内蒙古大学学報≫1991年 第1期。

豊田五郎 <関于契丹小字的幾点探索>≪内蒙古社会科学≫1991年 第3期。

余志鴻 <従'蒙古秘史'語言看東郷語>≪民族語文≫1994年 第1期。